

新型コロナウイルス感染症対策について

「備える！中日サバイバルキャンプ」における新型コロナウイルス感染症対策として、以下を実施いたします。ただし参加者の交流機会やイベントの性格上、**他人との距離が近くなる場面がありますこと、あらかじめご了承ください。**



感染症対策

〈体温チェック〉

- 参加者と同居の全ての方にキャンプ1週間前からの検温・体調管理をお願いします。
※風邪の症状や37.5度以上の発熱がある方、強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）、味覚・嗅覚障害がある方は参加を見合わせていただきますようお願いいたします。
- スタッフも上記に該当する者は参加しません。
- 全ての参加者・スタッフは、キャンプ受付時、1日目就寝時、2日目起床時に検温を行います。

〈マスクの着用〉

- 参加者の皆様は、必ずマスクの着用をお願いします。
- スタッフも全員、マスクまたはフェースシールド着用で対応します。

〈消毒の徹底〉

- プログラムの前後には「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした感染対策を実施します。キャンプエリア(4ヶ所)及び施設内に手指消毒設備を設置します。
- 参加者同士が間接的に接触する可能性のある箇所や道具については、1日に1回、または1クールごとに消毒を行います。
- ディスポ（使い捨て手袋、ペーパータオル等）を適宜利用します。

〈換気の徹底〉

- 屋内のプログラムでは窓やドアを開けるなど、こまめな換気を行います。

〈ソーシャルディスタンスの確保〉

- 対人距離を確保します。（2mを目安に最低50cm以上）
- 屋外もできるだけ密集を避けます。
 - ・各プログラムでは、100名を2～3グループに分けて行います。
 - ・夜間は一人ひとつの段ボールシェルターを使用し、野外(晴天の場合)で就寝します。シェルター間の距離を1m以上確保していただきます。
※雨天の場合は、屋内での就寝となりますが、ソーシャルディスタンスを考慮した配置を行います。
 - ・できるだけ対面での食事や会話を控えていただきます。



体調管理の対応

〈熱中症対策〉

- 屋外で人との十分な距離(2m以上)を確保できる場合は、適宜マスクをはずすことを推奨します。また、こまめな水分補給を推奨します。

〈看護師の常駐〉

- 常時、看護師が待機しています。けがや体調の悪い人がでた場合は隔離した場所で看護師が対応します。

〈キャンプ中の発熱について〉

- キャンプ中、参加者・スタッフの中で新型コロナウイルス感染症などの疑いがある場合は、参加者全員に速やかに帰宅していただきます。また、以降のキャンプは中止します。



その他

〈スタッフとの接触について〉

- プログラムによっては、参加者とスタッフが直接接触する場面があります。スタッフはマスク着用またはフェースシールド着用を徹底します。
- プログラム内容に応じて手袋の着用をお願いする場面もあります。

〈参加者同士の接触について〉

- プログラムによっては参加者同士で協力による接触、近距離での会話を行う場面がありますが、できるだけ短い時間で行っていただきます。

〈感染追跡調査を可能とするための措置〉

- 感染者が出た場合の追跡が行えるように、個人情報に留意しつつ参加者名簿の適正管理を行います。
※イベント終了後に感染が明らかになった場合は、速やかに中日新聞社まで連絡していただきます。